



伊藤 祐基氏

石川県紙器工業組合理事長
紙イ・ウ紙二 代表取締役社長

VOICE OF CARTON BOX VOX

紙器企業の活性化にリーダーシップ発揮 変化に対応できる「考える集団」を志向

竹山雅万氏(竹山紙器社長)の後を引き継ぎ、石川県紙器工業組合理事長となった伊藤祐基氏。早くから青年部で卓越したリーダーシップを発揮して、全国的にも存在感を示してきた。20代で社長に就任したイトウ紙工(石川県白山市、0776-2775-6811)でも、白川紙管分所で活発な設備導入を進めて、事業展開に弾みをつけている。特に、抜き加工設備では県内でもトップクラスの充実した設備を誇っている。

伊藤氏は1989年(平成2年)、26歳で社長を引き継いだ。若い時期に社長になった早もあり、石川県紙器工業組合の活動は経営を任泊している。

「普段の事情である程度は仕方がないとしても、われわれが納得できる提案をして頂きたい。これは前理事長の竹山氏も言われていますが、紙器製造業者と販紙メーカー、あるいは地元紙問屋さんも「同じ仲間」である事という認識を持つ、自社や属している業界だけが残れば良いという発想でなく、包装関連業界全体が互益を確保できる体制作りに向けて、業界のPRも含め相互に工夫していくことが必要であると思います」と強調する。

イトウ紙工の創業は1940年(昭和20年)、伊藤氏の祖父が金沢市内で紙の断ち切りや製本などを行ってきたが、昭和30年頃から日本産ラベルの加工を行

では、若手が集まった青年部会活動にも積極的に取り組んできた。組合の理事長に就任した今の製紙として伊藤氏は「紙器・設備・ITも業界も、普及の促進やロットの小口化や短納期、新しいものを増やす必要への対応など、新たな対応が迫られてきている。

うようになり、紙箱の製造にも着手した。1962年には国内でもいち早くドノツ・ハインデルベルグ製のシリンダー打抜機を購入。印刷紙の抜き、彫箱の製造を本格的に開始した。

1985年に現在地に移転。87年には特殊製箱ができるタナベ製のワンタッチグルアを導入。89年には、3アスト製のオートアラテン機、さらに2005年には三和製作の自動平整打抜機を設置した。現在の設備は自動平整打抜機3台、シリンダー型打抜機2台、彫箱機が3台など、抜き・貼り部門の充実度は同社の特長となっている。貼りについてはナイード貼りのほか、ワンタッチグルアやコーナー、コーナーなど特殊貼りにも対応する。現場に国家技術認定資格者が10名もいて、抜き、貼りの技術については、設備も含めて自信を誇っているという。

地元の印刷会社からの受注が多いのが同社の特徴で、特に石川県は清酒や和菓子などの食品関

他県ほどではないにしても、石川県紙器工業組合の組合員数は減少傾向にあり、強い企業間のネットワーク作りが必要となっている」とも述べている。

世代交代が進んでいる紙器業界の中にあっても、26歳で企業の舵取りを任うケースは珍しい。社長成仁当時で記録に残っていることとして、同氏は「日報さん(現日報出版)で刊行された京都府紙器工業組合の行状報告書、右原政之社長(当時)の書籍、あすの紙器企業を考える」(コストダウンを生む異業種からの考え方)を読んだ時の驚きをあげた。

「一冊から物置に至るまで細部におわたっての原価計算・管理に刻する考え方がある事に驚き、勉強するつもりにも、右原社長を訪問して交流を深めることができました。最近では兵庫県紙器工業組合の大西理事長による「ICタグ」研究成果に期待しています」

「以て、組合青年部会が中心となって毎年実施している「会議費削減のパッケージ」需要が多く、現在の中心的な仕事となっている。「ただ、今後の展開を考えると、ただ単にパッケージを製造するのではなく、企画開発部門も必要ではないかと考えてきました。私は平成2年に社長を引き継ぎましたが、10年、20年先の印刷設備を考えると、従来の仲間仕事だけでなく、ユーザーに対して企画提案も視野にいれた展開が必要と考えました」

さっそくデザイン部門を独立させた。04年(平成16年)には県内の紙器企業で初めてマッキャントツシユを導入。02年には3Dデザインが可能なじェスシステムとカッティングプロッターを導入するなど、ソフト面にも力を入れてきたのも将来を展望した取組であった。

最後に「今後の言葉展開について」という質問を投げかけると「同じようなように話してくれたい。先にも申し上げましたが、当社は県下でもいち早く抜き加工設備を導入して、加工技術・能

「パーショウ」への企画・出張や様々な研修会や視察でリーダーシップを発揮してきた。昨年暮れには北陸3県の紙器業者のネットワークを作り、全日本紙器協会、ルネ工業組合連合会の後援の下「パッケージフォーラム北陸」を開催するなど、多くの活動を行ってきた。

石川県紙器工業組合としてのホームページ立ち上げも早かった。「箱製会(箱)ドットコム」というサイトも、活動報告やメンバー紹介を行っています。またネット上でユニークなデザインの程などを紹介することも、各社合員の商品や企業PRを活性化させるよう、ブログシステムを導入したりリニューアルも同も大きく成功しています。

石川県は伝統的な和菓子メーカーや工芸品生産企業も多く、他県よりも製造業企業が多い地域だ。

「パッケージに対するデザイン性や付加価値を決めるユーザー力についてはバイオエノブ的な役割を果たしてきました。さらに時代の変化に対応して、設備の充実だけでなく企画・デザイン部門のハイレベルな取り組みが必要で、ユーザーにアピールできるパッケージデザインのはかPUPアイズアレイ、ノベルティグッズなど様々な分野に挑戦し「総合販促提案型企業」を目指していきたく思っています」

同社の企業スローガンは「Thinkering Packaging」。「パッケージを考える続ける集団」として、時代の変化・ニーズに伴って変化を考えていく企業姿勢を今後も保ちていきます」と力強く結んだ。